

病・病連携 広報げろ 2012.11

紹介状と医療機関の連携

病院を受診すると紹介状（診療情報提供書）を求められることがあります。また、当院に通院しながら紹介状を持たないで他病院、医院を受診される方がおられますが、そのようなときにもその病院は当院に紹介状を要求してきます。

紹介状の重要性

他病院や医院に通院しながらも当院を受診されるのには、通院中の病院が遠いから、希望する科がないから、医師が気に入らないからなど様々な理由があります。しかしながら紹介状を持たないで受診するとそれまでの治療歴がわからず的確な診断が遅れる場合があります。特に緊急を要する場合、医師を悩ませます。緊急に受診しなければならない時のために、普段通院している病院から緊急受診する可能性のある病院に治療内容を提供しておいていただくとその病院の医師は大変助かります。

医療機関の連携プレイ

病・病連携、病・診連携は大変重要なシステムです。病院や医院はお互いに信頼関係を持って、より専門の診療、病院の入院機能、在宅療養機能などを求めて患者を紹介し合っています。各医療機関は互いに連携することによって持っている機能を最大限発揮できるように努力しています。紹介状はその信頼関係を保ち適切な診療を継続するために大変役立っているのです。

医療機関の変更と紹介状

受診する医療機関を変えるときには紹介状を書いてもらうと紹介先での診療がスムーズに運びます。紹介状は、患者の都合で通院先を変えたいときに依頼して作成される場合と、医師が他の病院のほうが適切であると考えて作成する場合があります。紹介状の作成を頼むのに抵抗を感じることもあるかもしれませんがその重要性を考えてぜひとも書いていただきたいものです。また、医師の側でも紹介状のない患者を診ることに抵抗を感じる場合があります。それはその医療機関の間で築いてきた信頼関係に影響することがあるからです。

紹介状と保険点数

医療機関の種類、規模によって違いがありますが文書による紹介には一定の保険点数が加算されます。適正な紹介状を書いて紹介することが役割の異なる医療機関の有効な利用につながるとして評価されているのです。

金山病院の病・病連携

金山病院では遠くの専門病院へ通院するのが困難な方々のためにその病院から紹介状をいただいてその指示のもとに処置や注射、投薬を行うことによって皆さんの便宜を図っています。また、金山病院では行えないような高度な手術や処置は高次の病院に紹介し、その後の入院処置や経過観察は金山病院で行うといった病病連携も積極的に行っています。

下呂市立金山病院院長 古田智彦